

いている。由美子に「あられ！帰っておいで！」と言われると、「これはしまった、見つかった！」というような表情で小走りに船に戻って来る。その動きがなんとも言われず可愛いのだ。



6月14日（火） 曇り時々晴れ

鳥取港→兵庫県柴山港

5:00起床。6:50出港。機帆走で7.5ノットから8ノット出ている。右手に見える陸は「山陰海岸国立公園」である。と言っても岸から2~3マイル離しているのだから細部にわたった風景は見るできないのだ。これがヨットの泣き所である。柴山の三木氏から時折電話。我々が来るのを楽しみにしている様子だ。後半風が強まり帆走に切り替える。スピードは一気に5ノットに落ちてしまう。それでも12:00入港。三木氏と再会する。宜野湾マリーナ以来である。彼は案内したいところがたくさんあるようだ。まず風呂。「七鎌温泉」へ。結構遠いのだ。遠いけどいい温泉である。次は昼食。これまた遠い。有名な「出石（いずし）蕎麦」。腹がへっていたせいかガツガツ食べる。お代わりもする。三木氏のヨットも見せてもらう。アンカーリングに最高入江も見てくる。＜マイウェイ＞に戻ったのは午後6時をまわっていた。

6月15日（水） 曇り時々晴れ

柴山港→京都府伊根港

今日は由美子の小学校以来のペンフレンド倫子さんが住んでいる伊根に向かう。由美子は函館を出港してから倫子さんに会えることをずっと楽しみにしていたのだ。6:00出港。時々弱い風も吹くがほぼ機帆走である。丹後半島を大きく回り込み鷲崎沖の定置網をかわして12:30入港。ついに京都府まで来たぞ！うれしいことに伊根港には旅のヨットが安心して係留できる岸壁があるのだ。37年ぶりの倫子さんとの再会。二人ともとても嬉しそうだ。3人で風呂へ。ここは水着を着て入る風呂である。いわゆるスパとかクアとかいうやつか。帰り、豪華な和食を頂く。

6月16日（木） 曇り 伊根港

自転車を出し散策。舟屋を見て歩く。船とともに生活出来るよう工夫した造りになっているが干満が少ない海域ならではの施設であろう。昔、日本海の海岸には同じような建造物が随所に見られたというが、たまたま伊根には沢山の舟屋が残り、今このようにして観光資源にもなっているのだそうだ。＜マイウェイ＞を

係留した岸壁と小さな舟入間をはさんだ向かいには「向酒造」という造り酒屋がある。シャレではない。向さんという名前なのである。NHKのドラマ「ええによぼ」のモデルになった酒屋である。今日の晩酌は向酒造の「京の春」と「サバへしこ」。どちらも私好みである。



6月19日（日） 曇り時々晴れ

伊根港→福井県小浜港

4日間お世話になった伊根に別れを告げ小浜に向かう。昨日は土曜日だったせいか＜マイウェイ＞の周りには夜通し釣りをしている人が多数。車中で寝たり、テントを張ったり、車と車の間にブルーシートを張ったり。まるでキャンプのようにして楽しんでいるのだ。出港に合わせ倫子さんが朝食を作って持って来てくれた。豆ごはん、ナスと天カマの煮物、ジャガイモとカボチャの煮付け。出港後二人でモリモリ食べる。手作りの味がなんとも言われず美味しい。野菜類は自分の畑で育てたという本当の手作りなのだ。

6月20日（月） 曇り 小浜港

低気圧のため風雨が強まりそうだ。停泊日にしておいて正解。小浜のヨットマン田中氏と連絡がとれた。彼は2003年、ただ一人ヨット＜サンサン＞に乗り小浜から日本海を北上、函館で出国手続きをしてアメリカへ向かったのだが、たまたま函館で彼と出会ったその時以来、私の夢もさらに大きく膨らんだことを覚えている。彼は間接的ながら私達にとっては恩人なのである。彼の軽トラを借りコインランドリー、ガソリンスタンド、スーパーを回る。午後は小浜城跡、三丁目（旧市街）を散策。予想にたがわず見どころがいっぱいである。さらに、日本海軍創成期、潜水艇とともに沈没死亡した佐久間艇長の銅像があるのにも感激。また、嬉しいことに町のあちこちに美味しい湧水もあるのだ。遠慮なく50リットルも汲ませてもらう。夕方、たくさんの御馳走を持って田中夫妻とお嬢さんが来艇。滝野氏に「今、田中氏と飲んでるよ」と電話で報告。滝野氏も熊谷氏も函館で田中氏と一緒に飲んだ仲なのである。